

# 出羽商工会景況調査報告

## [調査要領]

調査対象 : 出羽商工会地域の企業 100 社 (製造業 24、建設業 24、小売業 26、サービス業 26)

調査時点 : 令和 3 年 12 月、令和 4 年 3 月

調査方法 : 企業へ調査表記入依頼及びヒアリング

※D. I とは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、以下により算出している

D. I. = 【各項目の増加 (上昇・好転) 企業割合 (%)】 - 【各項目の減少 (低下・悪化) 企業割合 (%)】

## [全 体]

- ・前期調査 (2021 年度第 2 期) から全体 DI 値はマイナス 21.6 ポイント下落し、マイナス 41.1 ポイントと大幅に悪化した。直近 3 年の内、DI 値がマイナス 40 ポイントを超えるのは、緊急事態宣言が発令された 2019 年度第 4 期、2020 年度第 1 期、2020 年度第 4 期以来の数値である。

## [製造業]

- ・直近 DI 値はマイナス 33.3 ポイント。この DI 値は 2021 年度中最も低い DI 値である。新型コロナウイルス感染症の影響に加え、半導体不足による影響が伺える。

## [建設業]

- ・建設業は前期調査 (2021 年度第 2 期) から全業種中唯一 DI 値が改善 (プラス 3.4) している。
- ・他業種と比較しマイナス幅は小さいものの、直近 3 年で比較すると、DI 値のマイナス幅は徐々に拡大している。

## [サービス業]

- ・前期調査 (2021 年度第 2 期) から比較し第 4 期調査はマイナス 38.0 ポイント下落、小売業に次いで下落幅が大きくなっている。
- ・下落幅は緊急事態宣言 (1 回目) が発令された 2020 年度第 1 期から次いで低い DI 値で推移している。

## [小売業]

- ・前期調査 (2021 年度第 2 期) から比較し第 4 期調査はマイナス 41.2 ポイント低下しており、全業種中下落幅が最も大きくなっている。
- ・2021 年度の調査の中でも最も下落幅が大きくなっており、コロナによる需要減少が顕著に表れている。

12 月調査 (第 3 期) 前期 (7 月 - 9 月) と比べて今期 (10 月 - 12 月) の業況は						3 月調査 (第 4 期) 前期 (10 月 - 12 月) と比べて今期 (1 月 - 3 月) の業況は					
区分	製造業	建設業	小売業	サービス	全体	区分	製造業	建設業	小売業	サービス	全体
好転 A	13.6	0.0	4.3	4.2	7.6	好転 A	4.8	9.1	0.0	0.0	7.8
不変 B	68.2	72.7	52.2	70.8	60.9	不変 B	57.1	59.1	23.8	50.0	43.3
悪化 C	18.2	27.3	43.5	25.0	31.5	悪化 C	38.1	31.8	76.2	50.0	48.9
DI (A-C)	-4.6	-27.3	-39.2	-20.8	-23.9	DI (A-C)	-33.3	-22.7	-76.2	-50.0	-41.1

## 景況判断「D I」全業種及び業種ごとの推移

